人はなぜ病にかかるのか―「生き方」を見つめる新しい医学

現代医療と丸橋賢の『〈全人歯科〉革命』

新潟大学大学院　免疫・医動物学教授　安保　徹

現代医学は病気の症状や検査データを詳しく記載するが、病気になった原因や病気で出す症状の意味を考えようとはしない。その結果、病気の多くを原因が分からないままで対症療法を行い、かえって病気を悪化させている。

私はここ数年、病気の成り立ちを理解するためには自律神経（調節系の基本）と白血球（防御系の基本）の働きを理解する必要があると述べて、新しい医学を提唱してきた。そこで明らかになったことは「病気は適応を越えた生き方、つまり、無理のし過ぎ・楽のし過ぎによって起こる」というものである。

今回出版された丸橋賢先生の『〈全人歯科〉革命』は、やはり表れた病状のみにとらわれるのではなく、その背後に隠れている生き方の問題点を指摘している。そこからやるべき治療の方向性がみえてくるというのである。

読後の深い感銘と共に、医療に新しい流れをつくってゆかなければならないと決意を新たにしたのである。ここでは、私の提唱している新しい医学の骨格を紹介したい。

体温免疫学

「冷え」がもたらす多くの病気

過労や心の悩みが続くと顔色が悪くなるが、これは交感神経緊張によって血管が収縮し血流障害が起こっている状態である。このようにして低体温となるが、この時交感神経支配下にある顆粒球も増加するので、粘膜や組織の破壊が同時に進む。

もう少しこの状態に説明を加えると、顔色の悪さは低体温による全身性の「冷え」をもたらす。

東洋医学では「冷え」は病気の最大要因として理解されているが西洋医学的に言うと一つは交感神経緊張による血流障害なのである。

顆粒球はアドレナリン受容体を持ち交感神経緊張で増加するが、過剰になると放出する活性酸素により組織を破壊し、外観からやつれとして私達の目にうつる。免疫を司るリンパ球はこの時減少する。この状態で起こる病気の代表がガン、膠原病、痔、歯槽膿漏などである。

もう一つ、「冷え」は過剰な副交感神経優位の持続でももたらされることを知ってほしい。血流障害は血管の拡張のし過ぎ（低血圧）と筋肉からの放熱の低下によって起こる。肥満、運動不足、活力の低下、やる気の消失によってこの副交感神経優位の状態がつくられる。

このように「冷え」は副交感神経過剰優位でもたらされるが、この時その人の白血球パターンは顆粒球減少、リンパ球増多になっている。国が豊かになるとリンパ球上昇で病気になる人も出るようになる。大人ではガンにもなるし、子供ではアレルギー疾患を発症する。

顆粒球の多い病気の人は不安が強く（頻脈）、交感神経緊張からの脱却が必要であろう。逆に、リンパ球の多い病気の人は脱力が強く（徐脈）、副交感神経過剰優位からの脱却が必要であろう。もう少し具体的に言うと前者に対しては無理や心の悩みを聞き出し除いてやる必要があるし、後者の場合は軽い運動などで活力を取り戻してやる必要がある。

私達が健康であれば、日中、腋下温で36・0℃以上ありからだに「冷え」はない。しかし、日中でも36・0℃以下の人は低体温であり病気の予備群である。いずれの自律神経系への片寄りかを把握して低体温から脱却しなければならない。

不快な症状？実は治癒反応

アトピー性皮膚炎や膠原病は治しづらい病気と思って、医者も患者本人も、治すことや治することをあきらめかけている。しかし、実際は治る病気なのである。

その分かれ目は、病気で出る症状の意味を正しく理解できるかどうかにかかっている。アトピー性皮膚炎なら発疹やかゆみが出るし、膠原病なら発熱、炎症、痛みなどが出る。この不快な症状はいかなる意味合いを持つのであろうか。

家ゴミや動物の毛などの抗原にさらされると、生体はこれら（抗原）を抗体でつかまえ外に排泄しようとする。発疹で外に出し血流をふやし洗い流そうとする。このように不快なアトピー性皮膚炎の症状は治癒のために必要な反応なのである。

膠原病の患者は発症前に風邪様の症状を経験していることが多い。ウイルス感染によって組織障害が起こり、その修復のために発熱し多量の血流を送る反応が出現する。つまり、ここでも膠原病患者の出す症状は治癒反応なのである。

これまでの現代医学にはこのような考えが希薄だったために、不快なゆえにその症状を止めようとする治療が行われてきた。これが病気を治せなくしている理由だったのである。特に、消炎鎮痛剤とステロイドホルモン（副腎皮質ホルモンとも言う）はこの消炎作用が強いので病気の治癒を完全に止めてしまうことになる。

医者も一般の人も病気が出る症状の真の意味を理解しなくてはならない。難病は医療行為でつくられていたのである。潰瘍性大腸炎の下痢も治癒反応である。そろそろ医学も変わるべき時期に来ているのではないか。

安保　徹（あぼ　とおる）1947年生まれ。東北大学医学部卒業。米国アラバマ大学留学中の1980年に「ヒトNK細胞抗原CD57に対するモノクローナル抗体」を作製。1996年、白血球の自律神経支配のメカニズムを初めて解明。2000年、百年来の通説、胃潰瘍＝胃酸説を覆す顆粒球説を米国の医学専門誌に発表し、大きな衝撃を与える。国際的な場で精力的に研究成果を発表し続ける世界的免疫学者。著書に『免疫革命』『医療が病いをつくる』『未来免疫学』など。

生命の真実を見透す安保先生の〈癒しの感性〉

丸橋　賢

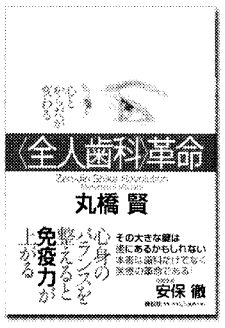
安保先生も、アトピーの治療法の件でステロイド塗布を否定し、医学界から相当な圧力を受けたと思う。しかし、自然の法則を知った者の確信は、そんなことでは動じない。私が「生命の活動が自然の法則に乗って営めるように手助けしてやると、最も楽々と、うまくいく」と述べたように、安保先生のアトピー治療法も、自然に戻ることでうまくいったのである。

自然への感性が育っていれば、たとえそれが権威や通説であっても、不自然なものにはウソ臭さを感じることができる。そして真実に素直であれる。そのような感性は、生命を、シャボン玉を両の掌で抱えるように大切に扱い、自然の法則に戻してやることができる。これが癒しの感性である。

安保先生に次々と免疫学における大きな発見をさせた本当の力とは、この癒しの感性にほかならない。（『全人的治癒への道』春秋社、8月刊、よ）

目からうろこの医療革命の新しい視点を提供！
【講演会】全人医学と免疫力
『免疫革命』（講談社刊）著者・安保徹氏
2004年9月1日（水）午後6時から
会場・高崎市文化会館大ホール　入場無料

丸橋　賢
心とからだが変わる
〈全人歯科〉革命
安保 徹氏（免疫学者）推薦
心身のバランスを整えると免疫力が上がる。その大きな鍵は歯にあるかもしれない。本書は歯科だけでなく医療の革命である！



忽ち増刷
あなたは良い歯医者と出会っていますか？　難治性歯周病、顎関節症はもとより、頭痛、首・肩凝り、腰痛、冷え症、喘息、アトピーなど多くの現代病に驚くほどの効果がある全人歯科の威力！　1575円

全人的治癒への道　最新刊
丸橋　賢
身体の一つの器官だけが良好な健康状態、また病んだ状態ということはありえない！　細分化・専門化された現代医学の問題点を解明し、心身全体を治癒させていく方法論とその思想を公開。　1890円

〈気〉の鍛練　人生は日常にあり
●帯津良一／鎌田茂雄　医療と仏教の達人が生活の中での気の活用法から生老病死まで、現代人に必須の真実を縦横無尽に語り尽くす。　1890円

私のガンは私が治す　ガンの予防と対策
●I・ゴウラー／帯津良一監修・小川京子訳
みずからも余命二週間と宣告された著者による奇跡ではない必然の画期的ガン克服法。　2415円

それでも人生にイエスと言う
●V・E・フランクル／山田邦男・松田美佳訳
病や苦境を乗り越えて、生きることの意味と価値の発見を訴える感動のロングセラー。　1785円

春秋社　〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-6　☎(03)3255-9611　FAX(03)3253-1384　http://www.shunjusha.co.jp/　〈価格は税込〉